

「幼虫、ちっちゃ！(5)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

今の季節、子どもたちは毎日のようにアゲハの幼虫や卵を学校に持ってくる。幼虫や卵の扱いはいろいろな方法があるが、私は日頃写真のようにしている。



葉のついたミカンの枝を、LG-21(乳酸菌飲料容器)の水につけて、そのまま置いてある。ミカンの枝は、水だけでも数日持つ。屋内だと、鳥や蜂といった天敵も来ないので、特に虫カゴに入れる必要もない。



卵は、しおれた葉についた状態で持参されることも多い。その場合は、しおれた葉ごと、新鮮な葉にホチキスで固定してしまうのが最も良い。これで、夜間や週末に孵化しても、幼虫が餓死することもない。



写真のように孵化直後の小さな幼虫を持参する子どももいる。この場合も、無理に幼虫だけ新しい葉に移動させないほうが良い。移動中に机や床に落下すると、あまりにも小さいので、見失ってしまうこともある。卵と同じように、ホチキスで新しい葉に固定しておく、幼虫のほうから自分で移動してくれる。



この方法は、新しいミカンの枝に、全引越しさせる場合も同じである。葉に新鮮さがなくなったら、引越しさせたほうが良い。幼虫が小さいうち(特に1齢・2齢)は、幼虫だけ移動させるよりも、幼虫のいる葉を適当な大きさに切り取って、新しい枝の葉にホチキスで固定するのが安全だ。しばらくすると、幼虫は自分から移動を始める。ただし、開け放った窓際には置かないほうが良い。傷ついたミカンの葉は、一種の誘引物質を放出し、幼虫の天敵の蜂を呼ぶからだ。